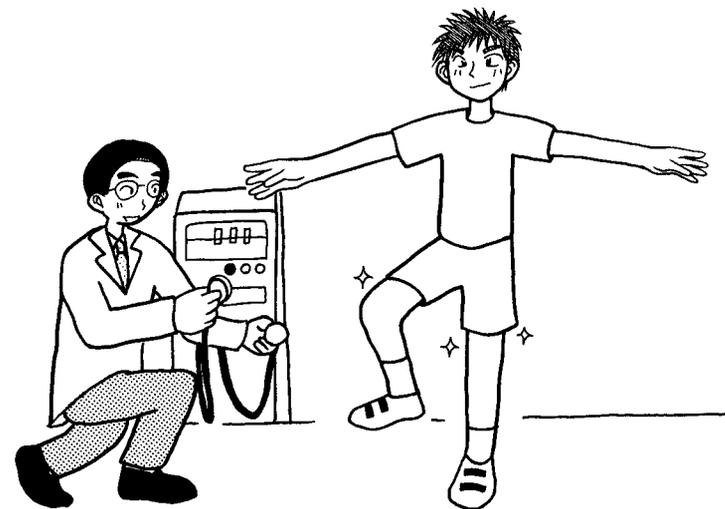


干渉波電流刺激による身体動揺低減効果の検討

研究代表者 大阪電気通信大学 野村 国彦

本研究は、膝関節に痛覚閾値下の干渉波電流を印加することにより、片足立ちを行った時の特に横方向の重心動揺が小さくなることを明らかにしたものです。干渉波電流刺激は理学療法の電気治療に用いられているものであり、この実験で開発した装置も比較的簡便な装置です。経皮電極により痛みを伴わない程度の電流刺激を行いました。干渉波電流を用いることにより深部にまで電流が到達するようにしたことが成果につながったのかもしれませんが、おそらく深部知覚の感度が電流刺激により改善した可能性を指摘していますが、今回の研究からそのメカニズムまでは明らかになっていません。また今回の研究における被験者は20代の健康人ですが、今後、高齢者における効果の検討が行われ、装置の小型化をはかることができれば、高齢者の転倒予防や運動機能の改善に活用することも可能になる、将来が楽しみな研究成果です。



膝関節への電流刺激を与えると、片足立ち時の横方向の重心動揺が小さくなった。この効果が今後、高齢者の転倒予防や運動機能の改善に活用できるかもしれない

